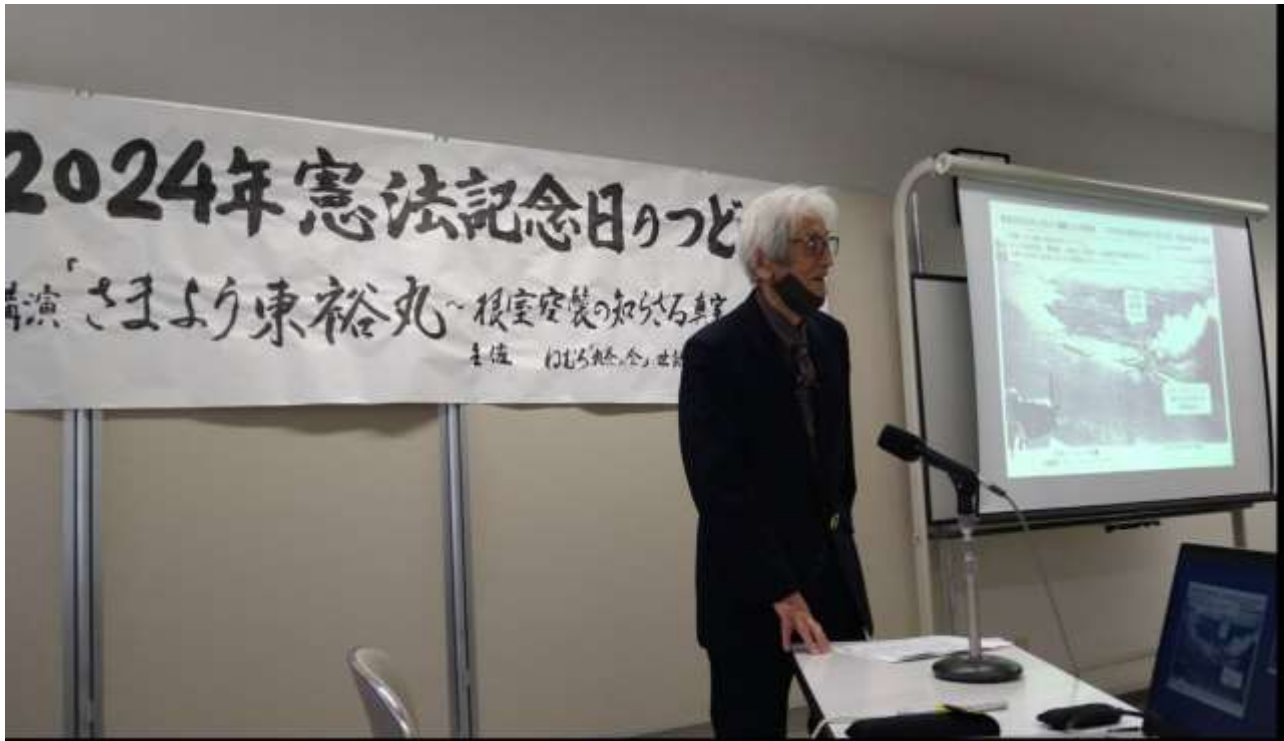


ねむろ「九条の会」

憲法記念日のつどい開催

ねむろ「九条の会」(神忠志、佐藤巧共同代表)は、5月3日(金)午後1時半から市総合文化会館において憲法記念日の集いを開催しました。大型連休中にもかかわらず、40人を超える方々が参加しました。



はじめに、佐藤共同代表が開会あいさつ。裏金まみれの上に憲法を変えようとする自民党に厳しい審判をと訴えました。

続いて、根室空襲研究会が作成した紙芝居「根室空襲48時間」をDVD化したものを視聴。空襲の悲惨さとともに、空襲後に当時の支庁の職員を中心に、根室の人々が救護、消火、炊き出し等に奮闘した様子が描かれていました。

次に、根室空襲研究会事務局長でねむろ「九条の会」世話人でもある近藤敬幸さんが、「さまよう東裕丸(とうゆうまる)〜根室空襲の知られざる真実〜」と題して講演を行いました(写真上)。

1945年7月14日、軍の徴用船「東裕丸」は根室港で空襲を受け東海方面へ非難するも、翌15日に米軍機の一斉攻撃を受け春国岱沖で沈没。全員が死亡したと伝えられています。遺体は、春国岱や走古丹などに流れつ

きました。

春国岱では、遺体を火葬するための木材等が足りず、仕方なく遺体から切り離した手足だけを火葬し、残った胴体等はそのまま土葬にしたそうです。また、別の場所では、遺体に内臓が残ったままでは火葬しにくいということで、ホタテの貝殻を使って腹を割き、内臓を取り出して火葬したとのことでした。

近藤さんは、その後の調査で遺体の発掘作業に参加したときに、「遺体に礼を失しないよう頭蓋骨に付いている泥を素手で払ったときに感じた冷たさは、今でも忘れられない」と述べられました。

次に、根室空襲時に灯台守の家族の一員として弁天島で暮らしていた木村幸恵さんが、弁天島灯台への攻撃を目撃した体験を下にアメリカで出版された絵本「YUKIE, S I S L A N D」を、ねむろ「九条の会」世話人の手繰満さんが日本語に翻訳し、同世話人の柴草道子さんが朗読しました。

当日、会場にいられた釧路「九条の会」の篠田奈保子さん、別海「九条の会」の岡井健さんが、今回の感想と九条を守る決意を述べられました。

終わりに、神共同代表が開会のあいさつを行い、「戦争犠牲者の遺体をさらに傷つけないかならない。人間の尊厳を踏みにじるのが戦争だ。日本国憲法は人類の理想を掲げたもの。今日の憲法記念日を契機として、平和への決意を新たにしよう」と、力強く呼びかけました。

